

「夜須高原長期チャレンジキャンプ」

～ 福岡・大分・熊本の自然・名山を満喫！ 自分にチャレンジ！ ～

- 1 趣 旨 子供達を、SNS やゲーム、テレビ等のメディアに依存した生活から離し、非日常である登山、野外調理、テント泊などの自然体験活動をとおして、仲間と協力し、困難に立ち向かい克服していくスキルやチャレンジ精神、自己有用感などを育成するとともに、異年齢の仲間との活層をとおしてコミュニケーション能力を高めていくことをねらいとする。
- 2 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家
- 3 後 援 福岡県教育委員会 福岡市教育委員会 大分県教育委員会 熊本県教育委員会
- 4 協 力 国立阿蘇青少年交流の家
- 4 期 間 令和元年8月12日（月）～8月20日（火） 8泊9日
- 5 場 所 国立夜須高原青少年自然の家 国立阿蘇青少年交流の家
鯛生スポーツセンター
- 6 対 象 小学校5、6年生 中学校1～3年生 計24名
- 7 参加者 27名（小5：8名、小6：7名、中1：4名、中2：3名、中3：1名、
学生ボランティア：4名）
- 8 日 程
 - 8月12日～16日【会場】国立夜須高原青少年自然の家
 - 12日（月）開会式（趣旨説明等）、人間関係作りレクリエーション、
野外調理（カレーライス）
 - 13日（火）夜須→大根地山→本道寺公民館（約11km 徒歩移動）、テント設営、
調理体験（焼きそばご飯）
 - 14日（水）バス移動 遊人の杜→古処山→屏山→馬見山登山口駐車場（約7km
徒歩移動）調理体験（パエリア）
 - 15日（木）登山学習（DVD鑑賞）ストレッチ・スポーツ
（台風接近による荒天のため）
 - 8月16日～19日【会場】国立阿蘇青少年交流の家 鯛生スポーツセンター
 - 16日（金）バス移動 牧ノ戸峠見学（台風接近による荒天のため）、
阿蘇市一の宮→国立阿蘇青少年交流の家（約10km 徒歩移動）、
テント設営、野外調理（豚汁）、テント泊
 - 17日（土）防災食（朝食）、バス移動 根子岳登山（約4.9km）、
野外調理（カレーライス）、テント泊

18日(日) バス移動 沢登り体験(国造神社付近) 大観峰見学
鯛生スポーツセンター泊

○ 8月19日~20日【会場】国立夜須高原青少年自然の家

19日(月) バス移動 釈迦岳・御前岳登山口見学(降雨による荒天のため)
朝倉市秋月→国立夜須高原青少年自然の家(約10km 徒歩移動)、
野外調理(BBQ)、全日程のふりかえり、スピーチ原稿作り

20日(火) 体験スピーチ会準備、体験スピーチ発表会、閉会式

9 活動の実際



【人間関係作りレクリエーション】



【野外調理(カレー)】



【大根地山登山】



【古処山~屏山~馬見山登山口】



【阿蘇一宮から交流の家へ】



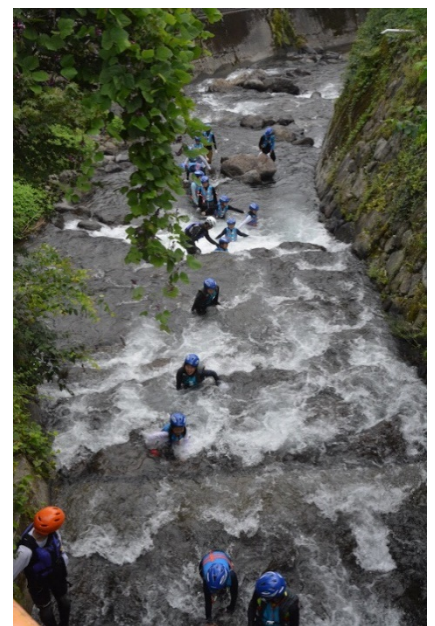
【防災食づくり】



【根子岳登山】



【室内調理(ご飯味噌汁)】



【沢登り体験】



【朝倉市秋月から夜須高原へ】



【体験スピーチ発表会】

10 感想（体験スピーチ原稿より）

- 自然の素晴らしさを学びました。特にそれを感じたのは、阿蘇での根子岳登山です。頂上に着いた時に見た、雄大で迫力のある阿蘇の景色はとてもきれいでした。あんな景色を見たのは初めてで、自然は美しいなと思いました。
- 私が挑戦してできるようになったことを二つ紹介します。一つ目は自分から積極的に手をあげたり発表したりしたことです。このキャンプに来て少しは積極的になることができました。二つ目は自分から友達に話しかけることです。話しかけることでたくさん友達が増えました。また友達に助けられて、友達の大切さを改めて学びました。
- 親への感謝の気持ちを改めて持ちました。朝・昼・夜のご飯を自分達で作ることは大変でした。それでも親がいやがらずに作ってくれるやさしさにとっても感動しました。時にはお母さんのためにご飯を作ってあげようと思いました。
- 班で一番年上の私は、班や全体のことを考えて行動しようと心がけました。そしてリーダーシップをとるためにはみんなから信頼されることが必要だと分かりました。だから私は、みんながやりたがらない仕事や役割を進んで行いました。登山の時はみんなの様子を見て声をかけて励ましながら活動しました。その結果、この集団はとてもいい集団になったと思います。

11 成果

- 全日程の活動について、「自然を満喫する」「自分自身に挑戦する」という二つのキーワードを使って、開会式で写真や図を使って具体的に説明した。また、毎日の活動の最後にその日の活動を振り返って、それに対する自分の思いを班の中で伝えあう時間と、次の日の活動を確認する時間を設けた。そのため、参加者は活動のつながり（軽から重、楽から困）を意識し、全日程の見通しをもって、毎日の活動に取り組むことができた。
- 開会式後に人間関係作りレクリエーションや野外調理を実施し、登山活動、テント泊（計3泊4日）、野外調理などのグループ活動を多く取り入れた。そのため、協力するよさや大切さを日程の早い段階で学ぶことができた。登山活動は徐々にその難易度（歩く距離の長さ、高低差）が高くなるように仕組んだので、体力的に厳しくなる登山活動時でも徐々に体が慣れたこともあり、グループで声を掛けて励ましあったりする場面が多く見られた。
- 学生ボランティアと事前ミーティングを行い、参加者とのかかわり方や注意する点を確認した。また、每晚参加者の様子について確認したり、参加者への言葉掛けや指導の仕方について話し合ったりする機会を設けた。その結果、上学年の参加者の問題点を把握して個別に指導することができた。また、学生ボランティアが参加者に適切に対応することができるようになっていった。後半になると、学生ボランティアが声掛けをしなくても、参加者同士で話し合って役割を分担したり、上学年の参加者がよい言葉掛けをしたり、よい関わり方をしたりする場面が多く見られる班が増えていった。
- IKR 調査を実施したところ、「生きる力」の変容は 15.7 ポイント、「心理的社会的能力」の変容は 9.0 ポイント、「徳育的能力」の変容は 3.5 ポイント、「身体的能力」の変容は 3.1 ポイントそれぞれ事前から事後にかけて向上した。よって、参加者にとって有意義な活動となったことが分かった。

12 課題

- 安全面の確認や熱中症対策で数回下見を行い、水分や時間配分等十分に検討して事業を実施したが、非常に気温が高い期間があったり、台風接近や悪天候で活動内容が変更になったりした。今回は、参加者が体調を崩すことなく、また、モチベーションを落とすことなく、活動内容を変更して対応できたが、事前踏査を十分に行って、プログラム変更等に柔軟に対応できるようにしておく必要がある。